

明るく 元気に 前向きに

第12号

いわき市立藤原小学校 (文責 校長・伊達多津也)

来週は、12月・師走・今年最後の月です。インフルエンザ流行が早まり、同方部の学校では学年閉鎖に踏み切った学校もありましたが、本校においては今のところ、「0名」となっています。しかし、油断は禁物！予防と体調の変化に注意していきましょう。

朝の登校 歩き方が良くなってきた！

本校には、「歴代PTA 会長会」という組織があります。会員は、歴代PTA 会長・現PTA 執行部ならびに現職の校長・教頭・教務となっています。

(「歴代会長会というものを組織している学校は、今までの勤務校ではありませんでした。」と、教務主任が話していましたが、私も今までの勤務校で初めてです。)

会の目的は主に2つ。藤原小学校の発展に寄与することと会員相互の親睦を図ることです。

学校のために「目に見える貢献をする」ということで、毎年校地内の除草作業を行っていただいています。さらに、「校長先生、声をかけてくれれば、学校のために何でもやりますよ。」という力強いお言葉もいただいています。(ありがとうございます)

さて、もう一つの目的の親睦を図る会が先週スパリゾートハワイアンズで開催されました。藤原小学校の歴史や現況を話し合ったり、会員の近況を確認したりする和やかな会でしたが、

その中で、次のような変化の話をいただきました。

「子ども達の朝の登校、歩き方が良くなってきた。」

子ども達の様子を見守っていただいていること、そしてその変化に気づいていただいていることが何より嬉しく感じました。学校や子ども達に関心を持っておられる地域の方の存在は、「これから地域を支えていく子ども達」にとって、たいへんありがたい存在です。



任せてみる

「昨年度と同じように」

同じことを繰り返すことも内容によっては大切ですが、学校の中の行事や運営は、見直ししながら改善を加えていく必要があります。見直す観点は、「子ども達にとって」「教育的な意義はあるのか」「無理や無駄ではないか」等々あります。(次年度以降の教育課程についても、これから教職員の知恵を縛りながら、子ども達にとってを中心に据えて、スクラップをしながら進めていきます。)

今回のゲーム大会は、昨年に引き続き「運営を子ども達に任せる」ことで行いました。本校では、縦割り班のふれあいと協力することに主眼をおいた児童会活動に加え、**運営も子ども達に任せること**としました。教師が手を出せばうまくいくことも、子ども達に任せてみることにしました。

「口を出し、手を出し、金を出す」 大人が敷いたレール上を無事に動かしていただけでは、子どもは自分で考え自分で工夫して動くようにはならないと言われています。時には子どもに任せてみて、大人は見守り、子どもの頑張りを見つけほめて育てることをねらってみました。

今回のゲーム大会の様子は、学校HPをご覧ください。

【校長のひとりごと】 気になる言葉、「シンギュラリティ」

最近とみに目に飛び込んでくるようになり、そのたびに、どういった意味かを検索する言葉が、「シンギュラリティ」。

恐竜の名前？なんて思っていたが、その意味を知っておどろき・驚き・オドロキ。びっくりの3乗だった。

「シンギュラリティ」とは、「人工知能 AI が人間の脳を超える技術的特異点であり、2045年」だそう。2045年・現在の6年生はもうすぐ40才、1年生は30才を超えたあたり。その頃には、AI が人間の脳を超えていくと予想されている時代の到来があるとは。これから何を求めて高めなくてはならないか、真剣に探っていくことが急務と感じる。